

目的 履心地の良い靴を追究する基礎資料を得るために、女子学生が所持する靴について調査を行った結果、履心地の良い靴の条件は、ヒールの高低、耐久性、柔軟性、通気性が主たる要因で、局部的圧迫による障害を起こさないものであることを認めた。今回はこれらをより具体化するために調査を行うとともに、試作靴について履心地の検討を行った。

方法 対象は、18～21歳の女子学生327名で、アンケート方式で行った。また、22.5, 23.0, 23.5, 24.0cmのサイズの靴を試履用として試作し、各々、10名の試履者による試履を実施し、着用前と着用後のフィット感等について吟味を行った。

結果 1) 履心地の良い靴の条件として、歩きやすい(86.2%)、疲れない(81.0%)、全体的によくフィットしている(76.1%)、つま先がきつくない(65.1%)等、機能性及びフィット感をあげる割合が多く、外観、デザインにはあまりこだわっていない。2) 靴の所持率を種類別にみるとパンプス、ローヒールが多く、履心地が良く、その利用度の高い靴では1)の条件をすべて満たしている者が多い。3) 靴に対するブランド意識については、こだわらない者が全体の81.3%で、多くの者は購入時の試履を重視している。即ち、購入時の履心地感が、靴の履心地を左右する条件の多くを満たしているものであれば購入するという形をとっており、靴の履心地は靴購入時の感覚に大きく左右されることを認めた。そこで、40名の被検者に被検靴をフィットイングしたところ、履心地が良いとした者は閉眼で25～60%あつたが、検者の観察では主として踵に間隙がみられた。また、5名の者による試履ではフィットした靴が1ヶ月以内にゆるみを感じている結果を得た。